

# 1. 評価報告概要表

評価確定日

平成20年6月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1571500204		
法人名	社会福祉法人 玉成会		
事業所名	グループホームじよんのび		
所在地	新潟県糸魚川市大字根小屋1228番地7 (電話) 025-558-2111		

評価機関名	社団法人 新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成	20年	1月15日

【情報提供票より】( 19 年 10 月 1 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人、非常勤 1人、常勤換算 5.8人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階	建ての	1 階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 100 円
	または1日あたり	1000 円	

### (4) 利用者の概要 ( 19 年 10 月現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名
要介護3	1 名	要介護4	3 名
要介護5	5 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.8 歳	最低 76 歳	最高 89 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	安藤医院、永野歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は豊かな山々に囲まれ、ホームに居ながらにして自然を感じられる環境である。建物は木造で暖かみがあり、廊下幅や共有空間に十分な広さを確保して、車椅子の利用者でも生活がしやすいように配慮している。同一敷地内には保育所があり、日常的に子供たちとふれあいが持てることが利用者の楽しみにもなっている。母体法人は地域に根ざした社会福祉法人であり、地域の行事等にホームの利用者も積極的に参加している。近隣の利用者が多いこともあって、地域の住民が気軽に利用者に会いに来てくれることがある。重度化した利用者に対しても、住み慣れたホームでの生活が継続できるよう関係医療機関と十分に連携をとりながら対応しており、食事や身体介護の方法についても職員間でよく話し合い、試行錯誤しながらより良いサービス提供に努めている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「居室の環境づくり」では、一人ひとりの利用者の心身の状況に応じて、居室の環境整備に取り組んだ。「注意の必要な物品の管理」では、管理方法を明確に定め、安全に管理している。「相談・苦情の明示」については、苦情受付窓口を明示し外来者にも分かるように掲示している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価をサービスの質の確保・向上の機会としてとらえ、自己評価・改善計画を職員全体で計画的に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を、地域との繋がりを強化するための場所として位置づけ、地域や家族の代表者の意見を運営に活かす努力がなされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>定期的にホーム便りを家族に送っている。また、面会時や必要に応じて随時電話連絡を行い、利用者の日々の暮らしぶりや体調の変化等を家族に報告している。面会時や家族会、運営推進会議等において、家族の要望や希望を聞き、運営に反映出来るように努力している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の祭り等に参加したり、地域の農作物を積極的に食材として使用するなどして、地域との交流に努めている。また、近所の方々が気軽にホームに立ち寄りたりと、地域の中で事業所の存在が認識されている。</p>

## 2. 評価報告書

(   部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人として「日本一優しい介護」という理念を掲げ、地域との関わりを大切にしながら、実現のために日々努力している。		
		理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を全ての職員で共有し、代表者が繰り返し折りに触れて伝えることによって、利用者のケアやホーム運営に対して理念を常に意識したケアを提供している。		
		家族や地域への理念の浸透			
2 - 2	3	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるように取り組んでいる	法人代表者が地域の集まりでホームの理念や役割について説明し、機関紙も地域に配布することによって理念の浸透を図るよう努力している。また、家族には利用開始時や家族会等、折に触れて理念について説明している。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り等に参加したり、地域の農作物を積極的に食材として使用するなどして、地域との交流に努めている。また、近所の方々が気軽にホームに立ち寄ってくれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価をサービスの質の確保・向上の機会としてとらえ、自己評価・改善計画を職員全体で計画的に取り組んでいる。		自己評価表は多くの人からホームの優れた取り組みを知ってもらうためにも、理念の実践に向けて更なる飛躍を成しとげるためにも具体的な表記が望まれる。
		運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を、地域との繋がりを強化するための場所として位置づけ、地域や家族の代表者の意見を運営に活かす努力がなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が主催するサービス事業者担当会議に参加し連携を図っている。また、必要時には随時、市に相談し助言を求めるとともに密に連携をとっている。		
6 - 2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関係法令への理解を深める学習会を行ない、職員に虐待防止についての考え方を周知している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りを家族に送っている。また、面会時や必要に応じて随時電話連絡を行い、利用者の日々の暮らしぶりや体調の変化等を家族に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議等において、家族の要望や希望を聞き、運営に反映出来るように努力している。		
8 - 2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のミーティングや、随時、法人代表者が職員から意見を求めたり、要望を聞き取り、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限とし、利用者や職員の馴染みの関係や信頼関係が維持されている。また、異動がある際には、利用者や家族にお知らせし、不安を軽減する配慮がなされている。		
9 - 2	18 - 2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しに適宜行われている	感染症・急変時・基礎介護など各種マニュアルが整備されている。今後もマニュアルを見直し、一部差し替えを行なうなど、適宜改正していく予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での内部研修の機会を多く確保し、計画的に実施して職員の育成に努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他ホームとの情報交換や学習会を行い、サービスの質を向上するよう努めている。		
11 - 2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人代表者や管理者に対して職員が意見や悩み等を言いやすいように、常時相談できる体制を確保したり、親睦会を持つなど配慮している。		
<b>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には家族や関係者から十分に利用者本人の様子を聞き取ると共に、その情報を職員全員で共有し、利用当初から利用者の戸惑いや不安を少なくする配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と生活を共にし、調理や家事・地域の風習や歴史等において職員は利用者から学びながら、支えあう関係づくりに努めている。		
13 - 2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の思いを伝え、家族と外出出来るように働きかけを行うなど、本人を共に支援する関係づくりに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の職員が日常生活の中から、利用者の思いや意向の把握に努めているが、情報の記録や話し合い等の情報共有が十分ではない。		個々の職員が持っている情報や、感じたり思ったことを記録して整理したり、カンファレンス等で協議することによって、職員間で情報を共有し、より本人の意向や希望に添ったケアが提供されることが期待される。
14 - 2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接記録において、利用者一人ひとりの生活歴等が把握されているが、過去の経験や利用者の嗜好等について情報が不足している。		利用者の1日の生活スタイルや得意なこと・苦手なことなど、馴染みの暮らしや経験について積極的に情報収集することによって、ケア内容をより個人に適したものとすることが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常生活の中でとらえた本人の思いや意向を踏まえて関係職員で協議し、家族にも希望を聞きながら介護計画が作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回のモニタリングを基本とし、介護計画を見直ししている。また、状態変化が生じた際には随時見直しがなされている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な対応					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関係医療機関との協力体制が確保され、随時往診を受けることができる。状態が重度化した際にも、家族と相談しながら対応が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の同意のもと、協力医療機関の医師が主治医となり往診を基本として支援している。ホーム職員は利用者の病状の把握に努め、緊急時には協力医療機関や法人の併設施設とも連携して対応できる体制が確保されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した際の方針が、本人・家族に周知されている。また、利用者一人ひとりの状態に応じて、医療機関とも連携を図りながら、職員及び家族と随時相談している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の権利擁護のために、個人情報保護・プライバシーの尊重に関する内部研修を開催し職員に周知している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりに合わせ、ゆったりとしたペースで生活できるように支援されている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地場の新鮮な季節の食材を活かし、利用者の希望メニューも聞きながら、一人ひとりの能力に合わせて利用者と職員が共同して食事作りを行っている。職員も利用者と一緒に同じテーブルで食事を摂り、食事を楽しめるよう支援している。		
22 - 2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握して、個々に応じた誘導を行なうなど、排泄の自立を目指した個別の支援を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望すれば毎日でも入浴が可能である。プライバシーを配慮して利用者と職員1対1の入浴介助を原則としており、安心してゆったりと入浴できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事の下ごしらえ、掃除などのホーム内での役割に加え、同一敷地内にある保育所の子供たちとのふれあいの機会があり、生活の中で楽しみが見出せるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い時期は近所への散歩やドライブに出かけているほか、地域行事への参加や、利用者の希望に合わせた家族との外出などを支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
25 - 2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等の関係法令の学習会が行われ、身体拘束を行わないという共通の認識が図られている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には鍵がかけられておらず、センサーにより出入りが確認できるようになっている。		
26 - 2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生時等には事故報告やヒヤリハット報告書を作成し、ミーティングで話し合い予防策を検討して、事故の再発防止に努めている。		
26 - 3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっている	緊急時の対応マニュアルが整備されているほか、救急救命法や医師による講習会に参加する等、急変や事故発生に備えた取り組みを行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるように働きかけている	年2回の防災避難訓練を実施している。また、火災等の災害時に地域住民からホームに駆けつけてもらえる協力体制が確保されている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士の指導を受け、栄養バランスに考慮した献立で食事の提供がなされている。また、ミキサー食や刻み食等、利用者個々の状態や体調に合わせた形態での食事提供も可能である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>廊下は車椅子がすれちがえる十分な広さがある。共有空間も十分なスペースが確保されており、畳の談話室が用意され、コタツも設置されている。日差しや風通しも良く、季節感のある装飾や花が飾られ、居心地の良い環境が確保されている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、家族の写真や手作りの物品が飾られているなど、それぞれ落ち着いて過ごせる場所となっている。</p>		